

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-740	12-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol is a Risk Factor not for Thalamic but for Putaminal Hemorrhage : The Akita Stroke Registry. アルコールは視床出血の危険因子であるが被殻出血の危険因子ではない：秋田脳卒中レジストリー		
執筆者		
Kazuo Suzuki, Manabu Izumi		
掲載誌		
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2012 Aug 29. [Epub ahead of print]		
キーワード		
アルコール、頭蓋内出血、肝疾患、危険因子		
要 旨		
目的： 頭蓋内出血の危険因子は既に確立されているが、出血部位別の危険因子に関する合意はあまりない。		
方法： 1990 年から 2000 年に施行された大規模健康調査データを用いた。対象者は the Akita Prefectural Federation of Agricultural Cooperative for Health and Welfare から得られた 151,796 人である。調査から 3 年未満の初発頭蓋内出血を対象事象（イベント）と定義した。脳卒中イベントは 1990 年から 2003 年における秋田脳卒中登録より確定した。臨床的な脳卒中の危険因子、すなわち年齢、血圧、重度肥満（body mass index>30kg/m ² ）、低コレステロール血症、肝疾患、腎疾患、飲酒習慣を評価した。		
結果： 対象者のうち頭蓋内出血は 344 例発症した。出血の部位別内訳では、被殻出血[PH]が 122 例（35.5%）、視床出血[TH] が 110 例（32.0%）、皮質下出血[SH] が 44 例（12.8%）であった。この 3 種の出血について危険因子を多重ロジスティックにて解析した。年齢はいずれのタイプにおいても有意な危険因子であったが、血圧は SH では有意ではなかった。低コレステロール血症、飲酒は PH のみにて有意であった。肝疾患は PH において強く、TH においては弱い危険因子であった。興味深いことに、飲酒は PH のみにて有意であった。		
結論： 飲酒習慣は頭蓋内出血の危険因子とされてきた。しかしながら、本研究では頭蓋内出血の部位別にみると PH のみの危険因子であり、TH、SH の危険因子ではなかった。		